

平成 28 年度 第 2 回 MFJ モトクロス委員会

議事録ダイジェスト版

開催日： **2016 年 11 月 8 日 (火)** 10 時 30 分～17 時 00 分

開催場所： MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

はじめに

中央審査委員会で最終決裁された、第 5 戦神戸大会における、選手の暴力的言動と審査委員会の対応について、専門誌記事などで取り上げられたことが事務局より報告された。

- ・ 掲載された内容の中で事実と異なる点については MFJ 事務局より連絡を入れた。
- ・ 今後はエントラントとの調和を諮り、レース環境雰囲気改善に尽力すべきである。
- ・ 罰則裁定等、情報公開の不足から、誤解が生じたことも考えられる。

等の意見が述べられた。

I. 委員改選について

- ① 現委員長の田中隆造氏が定年に伴い MX 委員長を退任し、評議員となることが報告された。
後任は以下の通りとなることが承認された。
委員長：荒井 定男氏(関東) 新任
副委員長：百井 明氏(東北) 継続
副委員長：池尻 和彦氏(中国) 継続
- ② MFJ 近畿代表委員の交代
田中 隆造氏 → 中村 宏氏
- ③ MFJ 北海道代表委員の交代
規程によると、MFJ 本部モトクロス委員への地区代表者は、各地区部会長に限定されていないことが確認され、北海道代表委員の交代が承認された。
田岸 進氏(北海道部会長) → 廿日岩 健一氏(北海道副部会長)
- ④ ヤマハ発動機代表委員の交代
福上 聖一氏 → 櫻井 太輔氏
- ⑤ 本会で改選を迎え、その他、地区代表委員・メーカー代表委員・有識者の再任が承認された。

II. 前回議事録の確認について

本年 7 月 21 日に開催された平成 28 年度第 1 回モトクロス委員会議事録が提出され承認された。

※MFJ 事務局より、競技役員用ヘルメットの在庫状況(紛失・劣化等)の調査が行われ、各加盟団体とも現状で問題無いことが報告された。なお、コース役員、救護員などコース内で役務に従事する者のヘルメット着用義務付けが要望された。

III. 2016 年度開催状況・ランキングの承認

- ① 全日本モトクロス選手権シリーズ
全 9 戦開催され、観客数は前年比 95%と減少した。

IA1・IA2・IBOPEN・レディース・チャイルドクロス合計の参加台数数は112%と増加した。
 クラス別では、IA1:105%、IA2:102%、IBOPEN:115%、レディース:112%、チャイルドクロス:138%、
 併催ジュニアクロス:103%であった。チャイルドクロスの増加が特に目立った。

② モトクロス全国大会

8月28日に世羅グリーンパーク弘楽園で開催され、全クラスの参加台数(162台)は前年とほぼ同数だった。
 クラス別参加台数は、NAOPEN:23台、NBOPEN:32台、ジュニアクロス:49台、J65:29台、CX:29台であった。
 NAOPENの出走台数が33台→23台に減少してしまった。

③ 地方選手権シリーズ、県大会(関東地区のみ)

開催全クラスの1大会あたりの平均参加台数の前年対比率は以下の通りであった。
 北海道:109%、東北:106%、関東:115%、中部:94%、近畿:111%、中国:110%、四国:86%、九州:118%

④ 2016全日本選手権シリーズランキングの承認について

訂正: IA1クラス24位#83の選手名 → 正: Ben Hallgren
 2016全日本モトクロス選手権シリーズ全クラスのシリーズランキングが承認された。
 ※2017年希望ゼッケン申請用の暫定IAゼッケンリストと申込書が提出され、MFJオンラインマガジンにて
 2016年12月31日消印有効として申込みを募ることが報告された。

⑤ FIMライセンスライダーのランキング表記について(改訂)

これまで、最終戦MFJGP(国際格式)に出場したFIMライセンスライダーに対し、順位に応じたポイントは与えられていたものの、ランキングには反映されていなかった。理由は、翌年の指定ゼッケンが前年ランキングをベースに与えられる為、海外トップライダーがスポット参戦により全日本ランキングの下位に反映されることを回避する為であった。他種目と足並みを揃える為、2017年度以降は、FIMライセンスライダーもシリーズランキング中に反映させるよう改訂することが提案され、承認された。

⑥ 2016モトクロス選手会活動報告

- MFJとライダーの仲介的機能
- 全日本シリーズ全戦において、ホスピタリティーブースを設置
- ファンサービスの一環として、ポスターを製作し無料で配布
- MXネイションズ応援Tシャツを販売し、売上を日本代表チームウェアの製作費としてMFJへ寄付
- MX選手会スクールの実施(2016MX全国大会)
- MX選手会ホームページやSNSでの配信
- ステージイベント(最終戦MFJGPでライダーの合同サイン会実施など)
- 本年度、熊本震災への募金活動を実施し、MFJを通じて被災地へ進呈。

来季の活動について、ファンサービス等の活動は一旦取りやめ、本来の目的であるMFJとのパイプ役に集中する。
 ポスターの製作は選手会から“モトクロ男子”に継続をお願いしており、検討中。またWebは開設コスト(年間数万)がかかる為、継続するか検討している。(MFJでニーズがあれば、経費捻出も含めて検討をお願いしたい)

※ポスター製作の継続が決定した場合、全日本各主催者様へポスターカレンダーの配布、及び置き場所の設置などにご協力をお願いしたい。

※レディース選手会は、例年通り、ポスターカレンダーの製作・販売と、MFJとライダーのパイプ役を担うことを主眼に活動を継続することが報告された。

IV. 2017年度主要競技会日程調整

1戦	4月8、9日	九州	HSR九州	※1
2戦	4月22、23日	関東	オフロードビレッジ	
3戦	5月20、21日	中国	世羅グリーンパーク弘楽園	

4 戦	6 月 3、4 日	SUGO	スポーツランド SUGO	
5 戦	7 月 15、16 日	東北	藤沢スポーツランド	
6 戦	8 月 26、27 日	SUGO	スポーツランド SUGO	
7 戦	9 月 9、10 日	近畿	名阪スポーツランド	
8 戦	10 月 7、8 日	関東	オフロードビレッジ	
9 戦	10 月 21、22 日	第 55 回 MFJGPMX	スポーツランド SUGO	

※1 : 震災復興を主旨とした世界選手権ライダーの参戦が検討されていることから、全日本 RD と重複日程しているものの、世界選手権カレンダーの都合で日程移動は不可能である。
 なお FIM ライセンスライダーが正式に競技会へ出場する場合、国際格式への変更手続きが必要となる。

8 月 20 日	2017 年モトクロス全国大会	世羅グリーンパーク弘楽園(広島県)
9 月 30 日～10 月 1 日	2017 年モトクロスオブネイションズ	マタリーベイスン(イギリス)
2 月 25 日～26 日	(特別競技会)オールスターモトクロス in 沖縄 2017 ※2	Ima NAGO Cross Field (沖縄県)

※2 : 沖縄オールスターモトクロスの開催概要が提出され、メーカーへの協力が要請された。

V. 2016 年 MX ネイションズ報告

本年 9 月 24～25 日にイタリアにて開催されたモトクロスオブネイションズの参戦内容が報告された。

代表選手: 成田亮選手(MXGP)、能塚智寛選手(MX2)、山本鯨選手(MXOPEN)

結果 : 予選 11 位 決勝 18 位(38ヶ国中)

監督 : 芹澤勝樹(ホンダレーシング)

団長 : 百井明(MFJ モトクロス副委員長)

今後に向けた意見(チーム監督より)

- フェデレーションのさらなる意識向上
- 監督、ライダーの選任(5 月頃に監督を選出、監督の意向でライダーを選出する案を提案)
- フィジカルトレーナーの派遣
- 協会メンバーの派遣(現地におけるプロモーターとのコンタクトなどの役務)
- チームウェアの製作(早めの支給、予備枚数も考慮した配給)

委員会意見

◇ 日本代表チームの派遣に際しては、経済的にメーカーからの支援が無ければ成立しないのが現状である。

◇ 本年度より、委員会を代表して 1 名を MFJ 本部からの派遣として帯同させている。(今年は百井団長を派遣)

◇ パスの手配やコントロールが年々厳しくなっており、簡単に入手できない実情である。

※日本チーム代表ライダーの帯同者とは言え、無償では手に入りにくい状況であることが報告された。

VI. 第 1 回モトクロス作業部会の報告と課題

前回委員会の継続検討事案の骨子をまとめる為、2016 年 10 月 24 日にスポーツランド SUGO で開催されたモトクロス作業部会議事録が報告された。

(1) 黄旗規則のガイドラインと運用の再検証

5/12 付通達の「黄旗(イエローフラッグ)規則の改訂」の再検証が行われた。

作業部会のまとめ

重要なことは、重大事故の発生を未然に防ぐ為の規則であることを全員が理解し、フラッグを守る意識を啓蒙することである。

- 急な減速が危険であることやジャンプの定義が曖昧な為、「ジャンプ禁止」の表記を「大幅に減速してジャンプを通過する」に改訂。

- 転倒の少ないコース作り、コースオフィシャルの配置見直しを目指し、選手会事前コースチェック時にコース役員の立ち位置を再確認するよう徹底。
- MX で競技アドバイザー的な役割を元ライダーに委託し、運営の円滑化を目指したいが、人選や派遣費用の問題がある為、経費を試算してみる。
- 規則遵守の抑止力や疑義が生じた場合の証拠として、コース内の数か所にカメラまたはコース役員のヘルメットにカメラを設置したいが、費用的な問題がある為、経費を試算してみる。
- 全日本シリーズ会場において、IA 以外のクラスの選手に対し、事前のフラッグ講習を行うことが提案され、いつ？誰が？どの時間に？の具体的な議論をする。
- 競技役員に対しシーズン前の合同セミナーの実施について検討する。

(2) コースアウトと再コースインの定義

第 5 戦神戸大会で疑義が発生した、コースアウトした選手が再コースインする場合の定義策定について議論された。

作業部会のまとめ

重要なことは、競技中にコースの外へ出てしまうことが違反ではなく、再コースインする際に、安全か、また有利となっていないかを理解することである。

- コースアウトとショートカットの判定の違いについて定義付けし、競技規則書に掲載し共通認識を広める。
 コースアウト …… 直線の両サイド、コーナーのアウト側等のコースからはみだし、時間や順位等で有利にならずコースに復帰する状態。
 ※コース復帰時に後続のライダーに減速や回避行為をさせたり、順位を上げたり、コース外を走行中にオフィシャルやプレスらを危険にさらす行為等は罰則対象とする。
 ショートカット …… 一旦コース外に出てコースに復帰する際、距離・時間・順位等、当該ライダーにとって有利な状態でコースに復帰する行為。
 ※コース復帰時に後続ライダーに悪影響を与えた場合は罰則対象である。
 但し、危険回避などで止むを得ず順位を上げたが速やかに順位を元に戻した場合は罰則対象とならない場合もある。
- 再コースインする場合、ジャンプの着地点からのコース復帰と後続ライダーが見えない場所からのコース復帰は禁止する。
 ※コース設営の際、黄色立入禁止テープ(全戦統一)を設置しておき、選手会コースチェック時に確認する。
- コースの定義を規則書に明文化する。
 コースの端は白杭もしくはコーステープ等で示される。進行方向左右の白杭(またはテープ等)の間をコースとする。同じ側の杭と杭の間は、基本的にその間を結ぶ直線上をコースとみなす。

(3) レース中に違反行為に対する罰則の見直し検討

作業部会のまとめ

重要なことは、シリーズ全戦において、どの大会も同じ目線で判定され、万一違反行為が発生した場合、与えられる罰則が平準的に科せられている環境を創ることである。

- 現状規則における、失格・一周減算以外にも罰則の幅を広げ、状況に応じて科す規則へ改訂すべき。
- 国内規律裁定委員会、中央審査委員会の罰則規定も改訂すべき。
- ペナルティリストの全戦持ち回り
- セーフティオフィサー(競技アドバイザー)の派遣による、判定基準の統一化

(4) 選手安全対策(プロテクター着用とメディカルパスポート導入など)

作業部会のまとめ

重要なことは、競技参加にあたり、ライダー自身も健康状態を適格に把握し、自己防衛の意識を持って競技に参加することである。

- メディカルパスポートの書式は、MFJ オンラインマガジンからダウンロードして入手できるよう準備する。
- メディカルパスポートの提出は義務付けとはしないが、所持するよう公式通知・ブリーフィングで啓蒙する。
- 脳震盪プロトコルが説明され、全日本各主催者へ伝達を徹底し、対応統一化に努める。また RD で採用されている通告書を採用し、脳震盪疑いのある選手へ要検査を促す「通告書」を適用すること等が説明された。
- プロテクターの義務化は、選手の抵抗が無さそうであるが、規格を決めて改めて義務化するよう進行したい。

決定事項

- ◇ モトクロス競技会におけるメディカルパスポートの導入について、2017 年は推奨とし、2018 年は義務化する。但し、個人情報の兼ね合いもある為、受付での提出などは義務とせず、管理方法をもう少し研究したい。
- ◇ プロテクターの義務化については、現状、規格が定まっていない為、推奨のみとする。
- ◇ 脳震盪症状における選手の出場可否は、レースドクターやメディカルの進言を基に審査委員会の判断とする。

なお、ヘルメットの公認規則が来年から改訂されることが報告された。

(5) 作業部会まとめの意見を受け、MFJ 事務局にてまとめられた企画内容が提出された。

① 運営組織の見直し提案

シリーズ全戦において組織形態を見直し、「管制員」を配置して、現場との情報交換を円滑にしておく。また、競技監督の負担を軽減させる為、副監督との役割分担を明確に行うこととすべきではないかとの意見が提案された。

② レースアドバイザーの導入提案

元国際 A 級ライダーの協力を得て、全日本シリーズ全戦に審査委員長とともに派遣し、事前コースチェックの立会い、IA 以外のクラスの選手に対する事前講習の講師、競技中の危険・違反行為の判定アドバイスなどの役務を行うことを想定し、東と西に 1 名ずつの想定で試算し、約 60～70 万円の経費であることが報告された。

③ モトクロスセミナーの実施提案

全日本シリーズ主催者、競技監督、車検長の参加を対象とした、セミナーを開催し運営統一化を図るべきだと考えるが、日程、会場、費用などの捻出について詳細を協議しなければならない。また、フラッグの講習用に、動画での教材製作も検討していくべきである。但し、経費の問題をクリアする必要がある。

④ 判定の補助手段として、撮影カメラの導入検討提案

定点カメラとして、なるべくコース全体が撮影可能な位置にビデオカメラを設定する方法、またはコース役員のヘルメットにウェアラブルカメラを設置し、競技中の動画を撮影する環境を提供したいが、費用や製品の性能（バッテリーの持ち時間、動画のクオリティなど）も検討しなければならない。

⑤ 競技役員の高齢化や人数不足への対応

元ライダーの経験はぜひ生かしたい。例えば、国内 A 級以上の競技ライセンスを持っていれば、競技役員ライセンスの取得を可能とし、講習会受講などの手間を簡素化する方法も検討したい。

意見

- MFJ 近畿より、5/12 付で発行された通達内容について、これまでは黄旗振動～転倒箇所までの区間が追い越し禁止とされていたが、その手前の静止の位置からの適用となったことに対し、追い越し禁止区間が長いほど、コース役員が判定する範囲が広がる為、選手との疑義が発生しやすい状況が生まれているとの意見が出された。
- ペナルティは厳重にとることで再発防止に努めるべき
- 動画はひとつの物的証拠としては有効である。
- カメラを導入することで、違反行為に対する抑止力を与えることが重要。メーカーへの協力要請なども検討の余地がある。
- 管制方式は慣れていないと機能しないことも考えられる。代わりに副競技監督を 4 名配置し、管制員の役

割も分担できている大会もある。

決定事項

- ◇ 管制制度は、モトクロス競技に適していない為、全戦統一化はしない。
- ◇ MFJ 近畿からの提案(黄旗の追い越し禁止区間の改訂)については、通達後の全日本における走行状況で改善の兆しも確認できているものの、作業部会にて再度検討することとなった。
- ◇ その他、提案事項について、第2回作業部会で検討する。

VII. 2017年度国内競技規則改訂案

2017年度国内競技規則書の作成に伴い、規則改訂箇所が承認された。
また、中央審査委員会より、MFJ 裁定規則の改訂案が提出され、承認された。
(詳細は 2017MFJ 国内競技規則書へ反映)

決定事項

- ◇ IA1 で適用されているポイントリーダーズゼッケン(第1戦:前年度チャンピオン、第2戦以降:前戦の暫定1位)の装着は、ファンへの PR を目的とした施策であることから、該当する選手・チームの意志による選択制ではなく、来年より義務化とすることが承認された。

VIII. その他事項について

- (1) 特別昇格審議
モトクロスジュニアからの特別昇格の審議がなされ、承認された。
- (2) 騒音計の買い替えについて
全日本選手権シリーズならびに地方選手権シリーズで採用されている騒音計が老朽化している為、全日本主催者積立金で購入することが事務局から要望され、承認された。
但し、加盟団体会長・事務局長会議での承認を必要とする。
- (3) 地方選手権の昇格人数の確認について
11月末日までに、MX 地方選手権シリーズにおける各地区の昇格人数を本部へご報告頂くこととなった。
- (4) MX プレス会からの報告
MX プレス会より、「コース横断の注意書」、「プレス会登録メンバーリスト」が提出された。
プログラムに掲載されている“出生地”について、一部の選手が統一されていない状況が報告され、ライセンスの登録県ではなく、エントリー用紙の出生地に記載された都道府県名で全戦統一するよう要望された。
- (5) 競技会の対応改善に関する意見
 - 競技中にピットエリアで故障した車両を登録 PIT クルー以外のスタッフも手伝っていた事例に対し、注意勧告のみであったが、公平性の観点から再発防止の為にも厳罰が望ましいと考える。
 - 第5戦で、コース杭が設置されていない箇所に関してブリーフィングで説明がなかった。今後通達してほしい。
- (6) Mxing より意見が提出された。

決定事項

- ◇ サイレンサーの使いまわし等が行われている件について、WGP の対応を参考に、サイレンサーのマーキングの代わりにゼッケンナンバーを記載し、使い回しを防止する策を導入することが決定した。
- (7) MFJ 中部より、普及対策について提案された。(決定ではなく、提案である)
 - ① IA1 と IA2 を統合し IAOPEN にする案
 - ② ジュニアクロスを全日本選手権対象クラスにする案
 - ③ レディースクラスを2ヒート制にする案
 - ④ NA、NB の2クラスを統合し、ナショナルクラスにする案
 - ⑤ 選手刺青(タトゥー)の対応について

⑥ 参加選手の遵守事項、ライセンスの取得要綱、違反行為に対する罰則について

意見

- ① IAOPEN 化は、メーカーとしては賛同できない。
フルグリッドであることは重要なことだが、実力が伴わない状況で数を増やすだけではあまり意味が無い。
誰に？どこに？焦点をあわせるのが重要である。
- ② 現状でもジュニアクロスは全日本の併催で行われており、そこに全日本選手権を付帯するだけで直ぐに対応できる。または、クラスにタイトルを付与するやり方も可能。
- ③ 現状のタイムスケジュールのままでは決勝にレースを追加することは難しい。同様に、レディースクラスのレースを増やすことも難しい。それぞれのレース時間の短縮や決勝レースの分散などとセットで考える必要がある。
- ④ 刺青(タトゥー)を入れた選手に対し、個人的な問題に立ち入ることはできないが、チャイルドクロスなど年少者レース人口も増加している背景もあり、人前で露出することは控えて頂くよう、選手に指導すべきである。また、選手個人だけでなく、チームにおいても積極的に露出しないようご指導をお願いしたい。
- ⑤ 中央審査委員会による罰則の改訂などで対応する。

提案は、今後の課題のひとつとして参考とさせて頂く。

以上